

## 京都域粹 第15号 「山本覚馬」

明治2年3月、**明治天皇**は『しばらく東京へ行ってくる』と言われたまま、二度とお戻りにはなりません。その後138年間、遷都宣言もされずに東京が事実上の首都となっております。このように言うと笑われるのが落ちですが、歴史的・学問的には事実なのです。当時の京都では『天皇さんは嘘をつかかった』と、動揺する声が満ちていたようです。

歴史的に不透明といえば、**戊辰戦争**で「**賊軍**」の汚名を蒙った会津藩もそうですね。御所（天皇）を攻撃した長州藩が官軍となり、守ろうとした会津藩がどういう訳か「**賊軍**」となっております。揚句の果てに藩はお取り潰しとなり、厳寒不毛の地（**斗南**：トナ）への移封でした。爾来、会津と長州の仲違いは溝埋め難く、婚姻話もまとまらないと聞いております。

会津の藩祖は**保科正之**、徳川3代将軍・家光の弟です。そのような血筋ゆえに、正之が定めた家訓（**かき**；家としての掟）15条の第1条には、『**徹頭徹尾徳川家に仕え、孫子の代まで背くことを許さない**』と明記してあります。よもや220年後に裏目に出るとは思わなかったことでしょう。

## 山本覚馬（ヤマモト カクマ）

会津藩士。文政11（1828）. 1. 11. ~明治25（1892）. 12. 28. 享年64歳11ヵ月。

失明および半身不随となるも、京都府顧問、商工会議所会頭、府会議員（兼議長）を務める。

京都は会津藩との縁が深いのですが、**山本覚馬**もそうした一人です。天皇東遷で火の消えたような京都に活力を与えるための殖産興業に尽力したことで有名ですが、もう一つ、**新島襄**を支援して**同志社英学校**の創立に多大の貢献をしました。覚馬の妹（**八重子**）は新島夫人となります。

山本家は藩の長沼流砲術指南役をつとめ、甲斐の武田信玄に仕えた軍師・**山本勘助**は遠い親類との噂もあります。幕末に藩主・**松平容保**が京都守護職になったため、覚馬も入京し御所警備に当たりました。元治元（1864）7月19日、**禁門の変（蛤御門の変）**における長州藩との戦闘で眼を痛め、これが原因で失明します。戦いは町を焼き尽くす大火災（**鉄砲焼け、どンドン焼け**とも呼ぶ）に至りました。御所（天皇）を守るためとはいえ、覚馬は京都に甚大な被害を与えてしまったことを悔やんで、京都の復興と発展に寄与することが自らの使命だと誓ったようです。

その2日前、新島襄は箱館の港から夜陰に乗じて密出国していました。

**鳥羽伏見の戦い**以降、**箱館戦争**に至る**戊辰戦争**において、会津藩は徹底的に破壊されました。有名な**白虎隊**20名の集団自決もこの時で、史実では**飯沼貞吉**一人が奇跡的に蘇生していますね。覚馬自身は京都で薩摩藩に捕らわれ幽閉されています。家族にも戦禍は及び、弟**三郎**は鳥羽伏見の戦いで、父**権八**は会津戦争で戦死。妹**八重子**は死んだ三郎の衣裳で男装し、鶴ヶ城にて抗戦の後最後は残った家族（母**佐久**、兄嫁**宇良**、その子**峰**、義妹）と共に命からがら城外に逃げました。

明日の夜は いくつの誰か 眺むらむ 馴れしみ空に 残す月影（八重子が蔵壁に刻んだ句）

また八重子の婿養子**川崎尚之助**（但馬出石藩出身）は、まだ士分に取り上げられる前でもあり、係累に咎が及ばぬようにとの配慮で離縁となっております。

その頃、新島襄は幸いにも米国の**ハーディ氏**の支援を受け、**アーモスト大学**に就学中でした。

賊軍会津の出身者が政治の世界で活躍することはまず考えられませんが、覚馬が京都府顧問に重用されたのは、新政府の側にやはり「人材不足」という切実な課題があったからです。とりわけ覚馬が獄中でまとめた建白書（＝提案書）『**管見**』が優れた内容であり、新政府の重鎮**岩倉具視**や**西郷隆盛**も敬服せざるを得ませんでした。そこには三権分立、職業選択の自由をはじめ、今日風に言えば、構造改革・税制改革・教育改革、そして産業振興の要諦が的確に触れてありました。

覚馬は、一時期江戸にて**佐久間象山**（西洋兵学の第一人者）や**勝海舟**らに学び、薫陶を受けております。兵学だけにとどまらず、開明的な思想や欧米事情も学び、また後の枢要人物との知遇を受けたことが『管見』の土台にもなり、また彼の後半生に大きく貢献したものと思われま。

尚、会津出身者としては、東京帝国大学総長となった**山川健次郎**や陸軍大佐になった**山川浩**の兄弟のように、例外的な出世と活躍をした者もおります。

## 管見 (カンケン) . . . 自分の意見を謙遜している言葉

覚馬の提案は22項目、1万字に及ぶものですが、3・10項目目は教育に関するものです。諸外国と伍していくためには、人材教育と女子教育が必要不可欠・緊急であると述べております。管見には、覚馬の尊敬する三傑（**横井小楠**・佐久間象山・勝海舟）の影響が色濃く現れています。

**学校**「我国ヲシテ外国ト並立文明ノ政事ニ至ラシムルハ方今ノ急務ナレバ、先ズ人材ヲ教育スベシ、依テ京撰其外於津港学校ヲ設ケ、**博覧強記**ノ人ヲ置キ、無用ノ古書ヲ廃止シ、国家有用ノ書ヲ習慣セシムベシ、学種有四、其一建国術性法国論表記経済学等モ亦其中ナリ、万国公法ノ如キハ、其二修身成徳学、其三訴訟聴断、其四**格物窮理**其他海陸軍ニ付テノ學術ヲ教諭セシムベシ。」

注1) 博覧強記 (ハクランキョウキ) . . . 広く書物を読み、いろいろな事をよく覚えていること。

注2) 格物窮理 (カクブツキョウリ) . . . 今日で言う「物理学」。

注3) 最終的には、上記に「医学」を加え五種となります。

**女学**「国家ヲ治ムルハ人材ニヨルモノナレバ是ヲ育スルハ緊要ナリ。日本支那ハ婦人ニ学問ヲ教ヘズ、自今以後男子ト同ジク学バズベシ。夫婦トモ精神ノ十分ノ智ヲ尽スモノナレバ其子親ニ優リ又其子モ親ニ優リ、追々俊傑ノ生ルハ其理也。童子ハ婦人ト関スルコト多ケレバ婦人賢ニシテ教ユルト愚此ヲ育ツルトハ其相違甚シ。夫女ハ生質**沈密**ノ者ナレバ其性ニカナフ學術國体ニ関ハル者ヲ撰ビ教ユスベシ、且才女ハ猶ホ学バズベシ。」

注1) 沈密 . . . 内側には良いものを持っているが、表面には表れないこと。

## 京都博覧会

明治5年3月、西本願寺・建仁寺・知恩院を会場として80日間開催。前年が大骨董展と大差ない内容であったので不評が残る。本年より**真実の博覧会**として幅広く展示品を並べ、余興として「**都をどり**」も披露され、好評を博す。外国人770名を含む、約4万人が来場。当時京都の人口は約30万人ですから、相当な来場者が殺到したわけで、ワールド・カップも顔負けです。広い会場が少ないので、翌年からは御所が会場として用いられています。

**三井家**、香具屋（現在の鳩居堂）、**小野家**などの商人が財政的にも相当な支援をします。余談ながら、香具屋は熊谷直実の末裔です。一の谷合戦で平敦盛を弓で射た方ですね。

覚馬は2代京都府知事・**榎村正直**（長州藩出身）のブレーンとして、官吏・**明石博高**とともに文明開化期の京都官営事業の創設に当たり、指導的役割を果たします。殊に、**英学校**、**療病院**、**物産引立所**、**勸業場**の創設ならびに**京都博覧会**の開催が名高いものです。長州と会津の出身者が京都で協力したのですから、皮肉な巡り合わせです。（後年は地租改正を巡り仲違いをします。）

榎村を後方支援したのは**木戸孝允**（長州藩出身、中央政府参謀）で、京都の洋式工業の導入は長州藩のスタイルをそのまま適応したようです。木戸も京都に関しては思い入れが深いのです。

京の町衆は自治意識が高く、何でもかんでもお上の世話にはならないという面が強いですね。明治2年の**番組小学校の創設**（**柳池小学校**）などはその表れで、日本初の快挙です。苦しい台所事情でも民衆が寄付金を拠出し、さらに香具屋や**丹波屋**などが高額を負担しています。こうした伝統は今日も息づいて、祇園祭などにも典型的に見られます。商人もなかなかしたたかですよ。

明治初期は国全体でも大きな改革があり、太陰暦を廃し「**太陽暦（新暦）**」の採用、24時間制の採用、貨幣単位の変更（円銭厘毛へ）などが挙げられます。新暦の採用により明治5年12月3日を以って明治6年1月1日に改められました。

これも余談ですが、「**元禄15年12月14日の赤穂浪士吉良邸討入り事件**」は、通常は1702年と記されます。ところが新暦（太陽暦）に直すと、正しくは翌年の1月30日頃、今年（2002年）で言えば、1月26日頃となります。つまり旧暦では年末、新暦では正月の事件となるのです。

## キリスト教

明治6年には**キリスト教禁制の高札が撤廃**されています。町角にあった布教禁止の立て看板が取り除かれたのですが、仏教界勢力の強い京都においては邪悪なものとして退ける風潮は根強く、外国人宣教師の入京も当時は制限されていました。従って、博覧会の開催は宣教師には好都合で見学を理由に短期間滞在することが可能でした。後に同志社創立に関わる**ゴードン**は、この時期覚馬と出会っております。当時ゴードンは大阪にて伝道活動中で、拠点を作ろうと懸命でした。

その頃新島は、**米国ラットランドのグレース教会**において、宣教師として日本へ赴任する前の最終演説を述べております。5,000ドルの篤志が集まった、同志社の礎となった有名な演説です。

仏教界も実のところ苦境にありました。明治直前の慶応4年の**神仏分離令**をきっかけに、旧弊打破と王政復古による神祇崇拜の風潮とが絡み合って**廃仏毀釈**（ハイブツキヤク）運動が盛んとなり、京都はおろか日本中で寺院・仏像の多くが焼棄または売却されるという事態を引き起こしました。さらに、続いて発せられた二度にわたる**上知令**（アゲルイ）によって、寺院はほとんどの領有地を召上げられたために、経済的にも大きな打撃を蒙っていました。そういう状況下で異教が侵入してくるのですから、仏教界にとってはまさに内憂外患、過敏に反応せざるを得なかったのです。

邪蘇教と呼ばれたキリスト教ではありましたが、**鹿鳴館時代**には多少とも市民権を得ました。鹿鳴館とは、外務卿・**井上馨**の肝いりで明治16年(1883)に東京日比谷に建築された社交場です。西洋化＝近代化の時代でしたから、西洋の文化や生活様式の摂取は最先端の流行でもありました。従いまして、西洋の宗教であるキリスト教に対しても受容する風潮が一時は高まったわけです。当時の京都府知事である**北垣国道**が娘を**同志社英学校**に入学させたのもこの時期でした。

## 覚馬の再起

覚馬は盲目になって間もなく、ある時暴漢に襲われた怪我によって脊髄損傷を起こし、やがて下半身付随の身ともなります。不自由な覚馬の生活の世話を焼いたのは**時恵**という女性でした。覚馬は生き延びた家族を京都に呼び寄せますが、妻**宇良**は精神を病んだ妹とともに故郷に残ったため別居離婚状態でした。時恵とは正式結婚はしておりませんが、山本夫人とも紹介されます。

さて、覚馬は不自由な身体ながら経営の才覚は秀でており、不動産事業や植林事業（桑苗販売）に乗り出し成功します。早期に小地主程度にはなったようで、地租（税金）16円を納めています。**地租10円以上納める者でない**と府会議員に選ばれない時代ながら、議員に当選し議長を務めます。

## 新島襄を支援 ～開港・邂逅・開校～

新島は明治7(1874)11月26日に横浜へ入港、脱国後10年ぶりの故国です。キリスト教に基づく学校の設立を目指しますが、横浜地区は既に他派の牙城であり、やむなく西の開港地である神戸・大阪地区に目標を移します。先輩格の**ゴードン**宅に寄宿したところから山本覚馬との接点が生れます。覚馬には新島の顔は見えませんでした。心情は理解でき目的も一致しました。以降二人三脚で学校設立に邁進しますが、翌年の**11月29日に同志社英学校の仮開校**となります。

聖書を外国人宣教師が教えることは禁止などと、**楨村知事**からは横やりが入りますが、様々な交渉の末、聖書は新島の自宅で朗読するならという条件付きで開校に至ります。初年度の入学生は僅か8名、教師は新島と**J. D. デイビス**の2名でのスタートです。隔世の観がありますね。その当時では、「比叡山を琵琶湖に投げ込むより難しい」と言われたほどの事業でありました。

新島は米国で**岩倉具視**を団長とする**遣外使節団**に会い、ヨーロッパには同行もしております。従って中央政府とも一定の人脈はありましたが、覚馬のように京都を知悉し、中央とのパイプもあり、また交渉や経営の才覚有る人物に巡り合えたことは「天啓」と言わざるを得ません。

同志社の命名も覚馬のつぶやきからと言われており、学校のPR文書を練っていた折に、『**我ら同志の者、我国において文学の隆盛せんことを望み、社を結び・・・**』と何回も口にしたのです。思えばこの二人、およそ尋常ではない組合せであり邂逅です。一人は依るべき国を棄て、一人は依るべき国を奪われました。最後には、依るべき国でなく、新しい国を創ろうとしたのです。